
言語景観の応用言語学的実証研究

彭 国躍／尹 亭仁

今年度の研究グループ活動は、主に言語景観の通時的変化と共時的現状の両面においてデータの収集を進めている。通時的研究は主に中国におけ

る歴史的都市言語景観、共時的研究は主に日本国内の多言語使用景観のデータ収集と分析に力を入れている。

彭が担当する歴史的、通時的研究の成果は一部「百年前の上海租界の言語景観」を題として2016年9月23日の非文字資料研究センターの研究会で口頭発表した。そして、『年報 非文字資料研究(14号)』に「上海南京路上言語景観的百年変遷(補正)―歴史社会言語学個案研究」が掲載され、非文字資料研究センターの「ニューズレター(37号)」において「言語景観研究の可能性について―ことばと社会のインターフェイス」という題でデータ分析の一部が掲載されることとなった。

2016年11月現在、訪日外国人観光客(インバウンド)の数は2千万人を超えている。インバウンドの内訳を見ると、中国、韓国、台湾、香港からの人が7割以上を占めている。この傾向を反映しているかのように、空港や全国のJRの駅など、日本の交通機関の案内表示は「日本語・英語・中国語・韓国語」が一つのパターンとなっている。

尹は、日本における韓国語の言語景観の様相および交通機関から商業施設などへの広がり確かめるべく、横浜の駅周辺および商業施設の高島屋、そごう、ヨドバシカメラと観光地である鎌倉駅などで景観調査を行なった。

さらに、韓国語初級および中級の履修学生約100人に各自の最寄り駅における言語景観を調べさせた。学生から報告された200枚以上の駅の写真に韓国語の表記が見られたが、路線によっては表記法が異なっているなど、新たな問題点が浮き彫りになった。日本語の語頭にくる子音4つ(k, t, p, ch)をハングルでどう表記するかは、韓国語教育において問題となっている。例えば、「鎌倉」を「카마쿠라」に表記するか「가마쿠라」に表記するかの問題である。韓国語において有気音の「k」と無気音の「k」は日本語と違って弁別的素

性である。これに加わって、「新宿3丁目」も「신주쿠산초메」と「신주쿠산초메」の2つの表記が見られた。日本における韓国語の景観の調査範囲を広げつつ、表記法の統一や言語景観を韓国語教育に生かす方法などについては論文にまとめる予定である。



横浜駅 中央通路



横浜ヨドバシカメラ



横浜高島屋・ITO-YA